

2015 年度 北海道大学 前期 英語

1

出題範囲	長文読解
難易度	★☆☆☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	本問は、構文や単語などに難解なものはなく、文章のレベルはセンター試験と大差ない基本的なレベルといっても差し支えないだろう。全体的に文章量の多い試験ではこのような問題をいかに素早く正確に処理できるかがカギとなるため、問6の解説でふれたように事前に問題の内容を確認するなど、少しでも時間を短縮することを意識していくことが大切である。

本文訳

コメディ番組はテレビで人気である。例としては『フレンズ』や『ザ・シンプソンズ』といった番組などがある。これらのテレビコメディが面白い理由の1つとしては、複数のジョークが効果的に混ぜて使われていることが挙げられる。これらテレビコメディにおけるある種のジョークは、「お決まりのギャグ」と呼ばれている。お決まりのギャグとは、1つのコメディの中で繰り返し出てくる面白い状況や会話の中での言い回しのことである。この繰り返しは同じ話の中や複数話にまたがって、あるいはその両方で登場するのである。

(1) 実は、お決まりのギャグはテレビが広く普及するより前、ラジオの「黄金時代」におけるラジオコメディで使われ始めたのだ。この時代は1930年代頃から1950年代まで続いた。これらの番組で最も人気なものの1つに『フィバー・マギーとモリー』という番組がある。このラジオコメディは、とある夫婦についてのもので、あるお決まりのギャグで特に有名であった。このお決まりギャグでは、夫のフィバー・マギーが何かを探すためにクローゼットを開けると、毎回たくさんのもものが落ちてくるのだった。フィバーは大声でクローゼットを開けようとしていることを言うので、聴取者はたくさんのもものがいまにも落ちてくるということがわかるのだ。当然だが、これがラジオコメディだったということを考えれば、聴取者は起こっていることを音で聞くことしかできなかった。フィバーがクローゼットを開くと、まるで多くの種類の物が床に落ちているかのようにさまざまな大きな音が聞こえる。聴取者が、起こっていることを音で聞くことしかできないという事実は、制約というよりむしろ (2) 利点 であった。想像の力はこの種のギャグの効果を高めたのであった。

1950年代にはテレビコメディがラジオにおけるコメディよりも人気になったが、その前身であったラジオコメディと同じ技法が多く使われ続けた。それらの中の1つがお決まりのギャグである。高校のある仲良しグループを描いた超人気番組である『ハッピーデイズ』という1970年代のテレビコメディにいくつかのよい例を見つけることができる。このテレビコメディは多くのお決まりのギャグを使い、そのほとんどは主要登場人物の1人であるアーサー・フォンゼレリという名の若い男についてであった。彼は革のコートを着て、大型バイクに乗

ったとてもクールな人物だった。このテレビコメディで用いられるお決まりのギャグはしばしばアーサーがクールだという評判に関係していた。例えば、彼は鏡の前を通り過ぎるとき、ポケットから櫛を取り出して、髪を整えようとする。しかし彼は鏡に映る自分を見ると、自分は完璧だと思って、毎回櫛をすぐにしまう。⁽³⁾ それはまるで彼の容姿はこれ以上改善の余地がないかのようにだった。 というのも彼は髪の毛 1 本すら乱れていることがないほどクールだったのである。また、彼は鏡を見ながら、雑誌の表紙のためにポーズをとっているモデルのように親指をズボンのポケットに入れるのだった。彼はとても自信家で、誇らしげに見えるため、この仕草によってその場面は一層面白くなった。別のお決まりのギャグでは、彼は壊れたトースターや車を少しの間軽くたたいたり、単に指を鳴らしたりするだけで直すことができた。これは彼のクールな性格を表してもいて、⁽⁴⁾ そのあり得なさ がゆえに一層面白かった。まるで人間はとてもクールならば機械にさえ影響を与えられるかのようにだった。

⁽⁵⁾ ほかの理由でもお決まりのギャグは作用するようだ。 まず、それらはとてもユーモアに溢れている。また、人は慣れ親しんだものを好むという理由からもそれらは作用する。物事が予想通りに起きて、自分の期待通りになったときに、人は満足を感じる。今回紹介したお決まりのギャグはこれらの番組のいくつかの放送回で繰り返し登場した。もちろん、もし同じお決まりのギャグが多く用いられすぎると、退屈なものになるという危険性がある。この理由から、テレビコメディの脚本を書く人はお決まりのギャグにあまりにも頼りすぎることがないように注意する必要がある。

解説

(1) 正解は C

選択肢訳

- (A) テレビは 1930 年代から 1950 年代までの間とても人気だった。
- (B) ラジオの「黄金時代」は 20 年間続いていたが、現在まで続いているわけではない。
- (C) お決まりのギャグはラジオコメディで始まったということを知って読者は驚くかもしれない。
- (D) フィバー・マギーとハッピーデイズの双方におけるお決まりのギャグは驚くほどに似ている。

そもそも下線部を含む文の主語は「お決まりのギャグ」であるので、それに関連することを示すために actually が用いられているのではないかということ念頭に置くべきであろう。そういう意味では(C)と(D)が残る。actually は事実を述べる際に用いられる副詞であるが、おもに 2 つの用法がある。1 つ目は前に述べられた内容を具体例などで補強する際の用法であり、この場合は「実際に」などと訳される。2 つ目は前に述べられた内容に対して、予想外なことや反対の内容を述べる際の用法であり、この場合には「実を言うと」や「なんと実際は」などと訳される。この問題においては 2 つ目の用法で使われている。第 1 段落ではテレビコメディにおけるお決まりのギャグについて述べられているのに対して、第 2 段落ではその起源はラジオコメディにあると続いている。これは第 1 段落を第 2 段落が内容的に補強しているというよりは、話の流れとしては予想外といえるだろう。よって話の流れが予想外だというニュアンスを含む選択肢である(C)が答えとなる。ほかの選択肢に関し

て、(A)は 1930 年代から 1950 年代にかけて人気だったのは、その期間に「黄金時代」を築いたラジオであることは第 2 段落の 2 文目から読み取れるが、この期間にテレビが人気であったことに関する表記は本文中にはない。(B)は第 2 段落 2 文目から事実とわかるが、下線部を含む文の主語はお決まりのギャグであり、あくまで actually が導く事実もそれに関連していると考えられるので、この選択肢のようなラジオの「黄金時代」の話は見当はずれな内容である。(D)は『ハッピーデイズ』についての記述があるが、それが話題にあがるのは第 3 段落であり、下線部が第 2 段落の頭にあることを考えると話が飛躍しすぎているうえに、そもそも両者におけるお決まりのギャグはクローゼットを開けるたびに物が落ちてくるギャグと、主要登場人物の 1 人がクールすぎるギャグであり、似ているとはいえないだろう。

(2)

解答例

ラジオコメディにおいて起こっていることを視聴者が音で聞くことしかできないという事実が、かえって想像力によってお決まりのギャグの効果が高められることにつながっているという理由で利点となる。

問題の指定は何が、どういう理由で、an advantage なのかを説明することなので、順に考えていく。まずは「何が」に関してだが、これは下線部を含む文章に The fact that people could only hear what was happening was an advantage rather than a limitation. とあるように an advantage の主語である The fact が「何が」にあたる。The fact の内容は同格の that 以下にあるとおり、視聴者は起こっていることを音で聞くことしかできないというものである。次にどのような理由で an advantage となるかについては、次の文から、音からしか内容がわからないために想像力がお決まりのギャグの効果を高めるのだとわかる。この文で 1 点注意すべきは、和訳問題でなく説明問題であるため、this を「この種の」などとそのまま記述するのではなく、指示内容である running gags を訳出すべきであるということである。以上のように第 2 段落の終わりの 2 文をまとめて上記解答のようにすればよい。

(3)

解答例

それはまるで彼の容姿はこれ以上改善の余地がないかのようだった。

問題には指示内容を答えろという指示はないが、指示語の it と代名詞の his について考える。話題の中心は『ハッピーデイズ』に登場するアーサーのクールっぷりに関してなので、his は当然アーサーを指すことがわかる。It はアーサーの行動を示している直前の 2 文の内容となろう。それはすなわちアーサーは鏡の前を通る度に髪を整えようと櫛を取り出すが、髪の状態が完璧なために櫛をすぐにしまうという部分である。注意すべき表現として as if と no ~ can ~ が挙げられる。as if は「まるで~であるかのよう」と訳される。ほかにも as though など同様の表現として挙げられるが、as if に比べて as though は現実である可能性が高いときに用い

られる。基本的に as if の if 節内は事実とは異なる空想の内容であり、仮定法で表記される。本問の場合もアーサーはクールとはいえども、お決まりのギャグに用いられる笑いの対象とされていることから、その容姿に改善の余地がないということは現実世界とは異なる空想世界における設定なのだろう。また、下線部文章の主節は過去形、if 節も過去形となっており時制は一致している。これは wish や as if などを用いた仮定法の時制は、仮定法で示される内容に対して主節の内容が同時ならば過去形、それ以前を表しているならば過去完了形となるためであり、この文では if 節は仮定法過去で表記されていることになる。また no ~ can ~ は直訳すると不自然になることが多い表現である。ほかにも似たような簡単な例として、”How are you?” などの問いかけに対して “It couldn’t be better.” などというやり取りが日常会話の中でしばしば見られる。これは直訳する「これ以上よくなる」となり、転じて「最高だ」と訳すことができる。このようなイメージで、下線部も、アーサーの容姿は改善のしようがないほどすばらしいなどとすると自然な訳ができるだろう。解答は、以上の内容をまとめて上記のように訳せばよい。また It や his は心配であれば指示内容に置き換えて訳してもよいが、本問においてはその必要性はないように思われる。

(4)

解答例

アーサーが壊れたトースターや車を軽く叩いたり、指を鳴らしたりするだけで直せること。

下線部を含む文章は and でつながった文章であり、分解すると This was funnier because of its impossibility. となる。ここで its の指示する内容は This であり、This はその前の文の内容を指示する。このように it はそれ以前の内容のうちの何かを言い換えているということだけを頼りに、前の内容を辿ることでも解答を得ることは可能である。しかし、1 つあとの文章に着目すると「それはまるで人はとてもクールであると機械にさえ影響を与えることができるかのようだ。」という内容があり、as if のあとには仮定法過去が続いているため、人が機械に影響を与えるのは現実世界では起こりえない空想上のことであるとわかる。よって上記のような解答を導くこともできる。

(5) **正解は B****選択肢訳**

- (A) それらはクールであるとともに恐ろしい。
- (B) それらは面白おかしい出来事に対する我々の愛着と予想可能であることの気持ちよさを結びつけている。
- (C) それらには多くのものが床に落ちるときに聞こえる類の音が詰まっている。
- (D) それらは作家を変えることで退屈なものになるリスクを回避する。

下線部を訳すと「お決まりのギャグが機能するのにはほかの理由もあるようだ。」となるが、最終段落冒頭にこの 1 文があることから、このあとにその理由が説明されているに違いない。そこで下線部以下に挙げられてい

る理由を確認すると、ユーモアに溢れている、人は慣れ親しんだものが好きである、人は予想通りに物事が起こったときに満足する、という内容が並んでいる。これらを選択肢に照らし合わせると 3 つ目の理由が(B)に合致している。(A)のようにお決まりのギャグが恐ろしいというようなことは本文のどこにも書かれていないし、(C)のように物が落ちてくる音がお決まりのギャグの一部であるのは本文中では『フィバー・マギーとモリー』のうち 1 つのギャグのみであって、ほかのギャグには該当しない。(D)については、最終文に「このようなことがあるために、お決まりのギャグに頼りすぎないように注意が必要だ」とはあるが、このおかげでお決まりのギャグがうまく機能するという内容や作家を変えるという内容は本文中にはない。以上により解答は(B)となる。

(6) 正解は A C E

選択肢訳

- (A) テレビコメディの脚本家はラジオコメディからお決まりのギャグのアイデアを借りた。
- (B) 上昇するラジオの人気がテレビの人気に悪い影響を与えてきた。
- (C) お決まりのギャグは繰り返し用いられるジョークや、ユーモアに溢れた場面として定義される。
- (D) 『ハッピーデイズ』という名のテレビ番組が原因でラジオコメディが衰退した。
- (E) お決まりのギャグを効果的にするもの、まさに繰り返しこそがその効果を失わせる可能性もある。
- (F) お決まりのギャグはもはやコメディの重要な部分ではない。
- (G) テレビコメディ『ハッピーデイズ』のアーサー・フォンゼレリはファッションモデルだった。

センター試験をはじめとして、英語の入試問題では本文全体に関わる選択肢問題が一定の割合で出題されるため、過去問分析などを通してこの類の問題の出題可能性が高いとわかった大問については、本文を読み始める前に問題を確認し、本文を読み進める中で選択肢を意識していれば、問題にあたったときに改めて本文を確認する手間が省けて大幅に時間を短縮することができるだろう。

さて各選択肢を本文に照らし合わせてみよう。(A)は第 3 段落の第 1 文後半から第 2 文にかけての、テレビコメディはラジオコメディと同じ技法を用い、そのうちの 1 つがお決まりのギャグだという内容に合致する。(B)のような記述は本文のどこにもなく、むしろ第 3 段落冒頭に 1950 年代にラジオコメディよりもテレビコメディが人気になったとあるくらいである。(C)は第 1 段落第 5 文の、お決まりのギャグとはコメディ中で繰り返される滑稽な状況や台詞である、という内容に合致する。(D)のような記述は本文中のどこにもない。(E)は最終段落第 6 文に同じお決まりのギャグを使いすぎるとつまらなくなる恐れがあるとあるため、これに合致する。(F)は、第 1 段落でテレビコメディが面白い理由の 1 つとしてお決まりのギャグが挙げられていることから本文に反する内容である。(G)については、第 3 段落 10 文目にはアーサーが雑誌のモデルのようなポーズを鏡の前でとるとあるだけで、実際にモデルであるわけではない。モデルではないのに鏡の前でモデルのポーズをするからギャグになるのであり、この選択肢も本文に異なる。以上から、正解は上記のとおりとなる。

表現

repetition 「繰り返し」

prior to A 「A の前に」

adoption 「採用；養子縁組」

obviously 「明らかに」

given that A 「A ということを考えれば」

predecessor 「前身」

individual 「個人」

reputation 「評判」

confident 「確信している，自信を持った」

demonstrate 「実演する；実証する」

run the risk of A 「A のリスクがある」

extensively 「甚だしく」

(中島庸元，松永悠希)

2015 年度 北海道大学 前期 英語

②

出題範囲	長文読解
難易度	★★★★☆
所要時間	25分
傾向と対策	若干難しい語彙が含まれてはいるものの、文構造が掴めないような箇所はなく、話の流れは問題なく追えて欲しい問題であった。文章量の多い試験なので、この手の大問は語彙力を高めることで素早く正確に解けるようになってもらいたい。

本文訳

50年前ならば、宇宙へのフライトの予約を話題にするなんて SF 中のことだと考えられていただろうが、いまや現実のものとなりつつある。地球の大気圏外縁部への一般人向けフライトを提供する初の会社であるバージン・ギャラクティックはすでに事業を開始している。この驚くべき進歩にもかかわらず、宇宙旅行事業が社会一般に実質的に与える影響はないといまだに考えたくなる。しかし、この商業的旅行の新時代は我々が当初想像していたよりも広範に影響力をもつかもしれない。

1つの即時的な影響としては、宇宙船の研究や開発に必要とされる膨大な額の資金が税金のみからまかなわれることはもはやなくなるだろうということがいえよう。何十億ドルという税金が政府の宇宙計画に投じられることを正当化することは、国家のリーダーたちにとって常に困難なことであった。⁽¹⁾ 商業的宇宙飛行の導入は、人類の進歩という抽象的な主張から、消費者の満足というより具体的な要求へと焦点を移すだろう。これは、将来の宇宙関連技術や宇宙旅行に投資される民間からの資金の額を考えると、大きな発展になりうる。結果として、我々は極めて幅広い利益を考え始めることができる。

そのような利益の1つとして、商業的航空産業一般に関連するものが挙げられる。大気圏外縁部への多くの飛行を一貫して何度も繰り返せる能力は、空の旅の急激な発展への扉を開くかもしれない。もし次世代のジェット機が大気圏の出入りをする事ができれば、日本から英国へ数時間で飛行することがいつの日か可能になりさえするかもしれない。もしも宇宙旅行に関連する研究が我々の旅行の仕方に ⁽²⁾ この類の影響 を与えるならば、その影響が極めて大きくなるということは否定し難くなるだろう。

⁽³⁾ このような民間投資の増加が、新しい研究分野の発展だけでなく、必要とされるであろう熟練労働者の数の大きな増加にも結果的につながりうる可能性もまた高い。工学の分野に長く影響を与える可能性が十分にある。ほかの結果として、この工学分野やほかの関連分野において、大学卒業者にとって現在可能である職業選択の幅が大きく拡大しうるということが挙げられる。

さらに、時間がたつ中ですべてのうちで最も重要だと明らかになりうるような、⁽⁴⁾ より緩やかで抽象的な影響

もあるかもしれない。商業的宇宙飛行は我々の世界に対する見方を微かに変えうる。我々の社会における重要人物で、宇宙の広大さに触れる人がますます増えるにつれて、国境という感覚が徐々に薄れていく可能性がある。国際宇宙ステーションの最近の船長であった若田光一氏は、ある会見で自分の宇宙における経験がどのように「日を追うごとの視野の変化」をもたらしたかのかを述べた。当初、彼は自分の故郷の町の写真を撮っていたのに、そこから日本、そしてアジア、最終的には「我々の惑星全体」の写真を撮るに至った経緯について語ったのだ。

しかし、これらの点には1つの問題がある。それは、この大胆な新規事業が成功するだろうという仮定にこれらが依存しているという点である。この成功の可能性に深刻な負の影響を与えようとするような単純だが重要な要素が存在する。自動車事故のニュースが、自動車に乗ろうという我々の気持ちにほとんど影響を与えないのは、道にはとても多くの車が走っているからだが、それに比べて飛行機に乗ろうという我々の気持ちは飛行機事故によってしばしば妨げられる。⁽⁵⁾例えばマレーシア航空 370 便が消息を絶ったという現在解明中の話題は、自動車事故では起こり得ない作用の仕方で、これから飛行機に乗ろうという客の気持ちを減退させる効力をいまだにもっている。どんな乗り物も問題には遭遇しうるし、宇宙船は存在する中ではおそらく最も複雑で、最も過酷な環境で稼働する乗り物である。もしもたった一度でも商業的宇宙飛行が大惨事に終わるとすれば、宇宙旅行にどのような影響を与えるか想像してみてもらいたい。

宇宙旅行が多くの異なる点で我々の生活に重大な影響を十分に与えうることを否定するのは難しいかもしれないが、この新規事業は危険なまでに脆^{もろ}くもあるだろう。最もよく知られたギリシャ神話の1つにイカロスの物語がある。彼の父親はイカロスが飛べるようにと羽を作ったが、太陽に近づきすぎることの無いようにと警告した。イカロスはその警告を無視し、結局落下して死んでしまうのである。商業的宇宙飛行の最大の魅力はひょっとするとその最大の弱みであり続けるのかもしれない。宇宙旅行はあまりにも高く飛べる可能性を我々に提供するのだから。

解説

(1) 正解は (a) from (b) to

該当の文章の空欄で分けられた3部分を訳すと、「商業的宇宙飛行の導入は焦点を移すだろう、人類の進歩という抽象的な主張、消費者の満足というより具体的な要求」となる。それ以前の部分では、これまで政府が税金を宇宙開発に使うことは大変であったが、今後は民間企業も進出し、さらなる進展が期待できる旨が述べられていることから、人類の進歩は政府が宇宙開発に税を投じるためにしてきた抽象的な主張であり、新たに宇宙開発に参入する民間企業は消費者を満足させるという具体的な目標をもっているという文脈だと推測できる。よって抽象的な主張→具体的な主張の移行がなされると考えられる。あとは from A to B 「A から B へ」という基本的な表現を思い浮かべれば答えが得られる。変化や移動を表す動詞と from A to B は相性がいいということを念頭に置いていればすぐに解答にたどり着けるのではなかろうか。ここで単語や熟語だけでなく、コロケーション（単語と単語のよく使われる組み合わせ）の重要性も再確認してもらいたい。

(2)

解答例

次世代のジェット機では日本から英国まで数時間で移動できるなど、飛行機での移動時間が大幅に短縮されること。

まず指示語の問題なので、直前に注目してみると日英間の移動時間が大きく短縮されることが述べられている。下線部は（我々の旅行の仕方への）この類の影響とあるが、この類というのは大きな括りなので直前の文にある具体例を述べるだけでは危険であろう。よって具体例は具体例として解答に反映し、それを一般化して飛行機での移動時間の短縮といい直せばよい。ちなみに直前の文には移動時間の短縮の理由として、ジェット機の性能が向上して、大気圏外縁部を出入りできるようになるということが述べられているが、これは我々の旅行への影響をもたらす原因であり、本問で答えるべき下線部が直接指している内容からは外れているため解答には盛り込んでいない。以上から上記のような解答ができ上がる。

(3)

解答例

このような民間からの投資の増加が新しい研究分野の発展だけでなく、必要とされるであろう熟練労働者の数の大きな増加にも結果的につながりうる可能性もまた高い。

It is likely that 「～である可能性が高い」、result in 「～という結果に終わる」、A as well as B 「B だけでなく A も」などが和訳の際に注意すべき表現である。あとは this increase in private investment や a large increase in the number of skilled workers の 2 つの句では in 以下が increase にかかることがわかれば正解を導くことができる。また、問題には直接関係しないが、英作文等で数や量の増減について述べる際、例えば A の増加と書くときに、an increase of A などと書いてしまいがちだがこれは誤りであって、正しくは an increase in A である。increase や decrease, change などの変化を示す語にコロケーションのよい前置詞は in だということは覚えておくべきだろう。

(4) **正解は C****選択肢訳**

- (A) 商業的宇宙飛行は国境感覚を向上させるだろう。
- (B) 我々の社会における指導者は宇宙の広大さに触れるだろう。
- (C) 我々の指導者達の世界に対する見方に変化が起こりうる。
- (D) 国際宇宙ステーションの船長は太陽系の写真を撮るだろう。

パラグラフリーディングでこの問題を考える。パラグラフリーディングの考え方では 1 段落に要旨は 1 つであり、段落内の構成としては段落頭の文章で要旨を抽象的に述べ、それに続く形で根拠の説明や具体例の提示などの補足説明がなされ、最後の文章は頭の文章で述べられた要旨を言い換えて締めくくるといったものが最もよく出てくる形である。本問の下線部は段落頭の文章にひかれており、あとに続く文章は具体例となっていることから上記の段落内構成に該当する。(ただし段落末に要旨を言い換えた文章はない。) 第 2 文以下では宇宙飛行によって我々の世界の見方が変わり、要人の国境感覚が弱まり、さらに具体例として宇宙飛行士の若田氏の認識する故郷というものが拡大したことが述べられている。このことから正解は(C)とわかる。ほかの選択肢を確認すると、同段落第 3 文に宇宙飛行によって国境感覚が弱まるとあるので(A)は本文の内容と異なる。(B)は同段落第 3 文に、(D)は段落末の若田氏の例に近いが、下線部にあるのは宇宙飛行によって徐々に生じる抽象的な影響であるので、両方とも宇宙飛行によって即座に起こる具体的な事象であるので不適切である。

(5) **正解は A**

選択肢訳

- (A) 例えば
- (B) 加えて
- (C) 対照的に
- (D) しかし
- (E) さらに

下線部以前と下線部のつながりを考える。自動車事故のニュースが多いことによって自動車に乗る気を削がれたりしませんが、飛行機に乗る気は飛行機事故によって削がれると下線部以前にあるのに対して、下線部ではマレーシア 370 便によって飛行機はいまだに敬遠されることがあるという内容が述べられている。これは前文の補足として具体的な事故名を提示した具体例であることがわかるため、正解は(A)の例えば、である。

(6) **正解は B F**

選択肢訳

- (A) 宇宙旅行分野において目覚ましい進歩が遂げられてきたが、宇宙旅行は我々がもともと考えていたよりも我々の社会に影響を及ぼしそうである。
- (B) 政府首脳たちは商業的宇宙飛行を導入するために多額の税金を使うことを正当化しなくてはならない。
- (C) 人々は宇宙関連技術や宇宙旅行の研究と発展に投資を始めるだろうが、それには膨大な額の資金が必要である。
- (D) 商業飛行業の進歩に伴って、我々の地球旅行の方法も劇的な変化を遂げうる。

- (E) 宇宙旅行ビジネスはリスクが高いとみなされるかもしれない、というのも 1 つの致命的な事故によって将来的な客層が宇宙旅行に対してとても慎重になってしまうからである。
- (F) イカロスの話は商業的宇宙飛行がその発展に要する巨額の資金には値しないだろうと暗示している。

各選択肢の内容を本文中から探していく。(A)は第 1 段落第 3 文、第 4 文に同内容の記述がある。(B)に関しては第 2 段落第 2 文に、政府首脳たちにとって政府の宇宙計画に税金を投入することを正当化するのは常に困難なことであったという記述があるが、これは商業的宇宙飛行ではなく政府による計画についてであり、また税金の投入を正当化するのが困難だといっているだけで正当化しなくてはいけないとは述べられていない。よってこの選択肢は本文の内容と異なる。(C)は第 2 段落第 4 文の、将来の宇宙関連技術や旅行に投資されうる民間からの資金の額を考えると、という記述が同内容といえよう。(D)は第 3 段落を抽象化した内容であり、同段落のまとめになっている最終文と内容が一致する。(E)は第 2~4 文、最終文をまとめたものといえよう。(F)はイカロスの神話が何を象徴しているかについての選択肢である。本文最終段落では、商業的宇宙飛行が魅力的である一方で極めて脆いものだということをイカロスの翼を例にして述べているのに対して、選択肢では、宇宙飛行を一方向的に否定しているという点で異なっている。以上から正解は(B)と(F)になる。

表現

in general 「一般的に、一般的な」

it is tempting to V 「つい V したくなる」

no longer A 「もはや A でない」

solely 「単に、単独で」

considering A 「A を考えると」

consistently 「一貫して」

be capable of V-ing 「V する能力がある」

implication 「意味、影響、結果」

could well V 「V する可能性が高い」

arguably 「おそらく」

in existence 「存在する、既存の」

end up V-ing 「V することに終わる」

(中島庸元, 松永悠希)

2015 年度 北海道大学 前期 英語

③

出題範囲	長文読解, 自由英作文
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	本文から1文を丸写ししなければ語句や考えなどは引用していいという問題文の指示があったため、自由英作の大問とはいえ、問A・Bに関していえば、適宜品詞を空欄に合うように変換、動詞を補充するだけで済む簡単な問題であった。ぜひ初めの2問は満点をとってもらいたい。問Cに関して、ホームスクーリングのデメリットまたは学校に通うことのメリットを考えれば、いくらでも反論を支える理由は思いつくと思うので、その中から説得力の強さというよりは書きやすさを重視して解答に用いるものを選んでもらいたい。

本文訳

多くの人がパーミングムのウエストブロムウィッチの中では比較的治安の悪い地域の1つというであろう地域に、スザンヌは5人の子ども達と暮らしている。ほかのイギリスの家族と何1つ変わらず、彼女は3人の息子と2人の娘に必ず早起きさせ、朝食を作ってやる。しかし、ほかと異なるのは、彼女はそのあとに彼らを学校に送り出しはしないということだ。かわりに彼女は彼らと一緒に座って、キリスト教団体から買った教材を使って自宅で彼らに勉強を教える。

ホームスクーリングは、子どもを公立や私立の学校に通わせるのではなく自宅で教育をすることと定義できる。このような子どもたちも特定の試験を受けたり、ホームスクーリングのための会議やワークショップに出席したりするためときどき学校を訪ねることがあるかもしれないが、彼らの日々の教育の大部分は自宅で行われる。

歴史的には、ホームスクーリングは子どもを学校に通わせたり、家庭教師を雇ったりする費用が高額であったため、とても一般的であった。学校へ通うことが18世紀に一般化し、結果としてホームスクーリングの人气が低下し始めた。しかしながら、ここ40年の間に、イギリスやアメリカを含む多くの国々で人气が再燃している。

ホームスクーリングにおいては、多くの場合母親こそが子どもの教育の担当である。子どもの世話だけでなく、教育する責任まで加わるにも関わらず、このような母親たちはしばしばホームスクーリングの利点を強く信じている。彼女たちが子どもを学校に通わせない動機として、特定の宗教的信条や主流となっている教育に対する不満に関連する理由もあるのだろう。何の資格もない親による教育の場合でさえも、ホームスクーリングを受けている子どもたちが、多くの場合にそのほかの子どもたちよりもよい成績をとることが、研究によって確認されている。

日本において、ホームスクーリングはいまだにとっても複雑な問題である。親が子どもを学校に通わせるか否か決める際に直面する法的障害が多く存在している。

A から C の問題に英語で答えなさい。本文の語句や考えは用いてもよいが、同じ文章をそのまま写してはならない。

解説

A

解答例

occasionally visiting a school in order to take particular exams or attend homeschooling conferences and workshops

問題文訳

次の文章を完成させなさい。

本文によると、ホームスクーリングを受けている子どもは_____によって社会的に孤立するのを避けている。

ホームスクーリングを受けている子どもたちが社会的孤立をどのように避けているかを答える問題である。注意点としては空欄直前が by means of であり、これには名詞や動名詞が続くという点である。解答に使えるような本文の箇所は第 2 段落第 2 文である。ここにはホームスクーリングを受ける子どもたちがどのように社会と接点をもっているかが記されている。occasionally 以下をそっくりそのまま動名詞化すれば上記のような解答が得られるだろう。注意書きにも文章をそのまま写さなければ部分的にフレーズを使ってよい旨が書いてあるため、この解答が最も無難ではなかろうか。うっかり occasionally を飛ばしてしまうと、ごくたまに登校するというホームスクーリングの特徴が解答に反映されなくなってしまうので、visiting から解答を始めないように気をつけてもらいたい。

B

解答例

have a particular religious faith

feel dissatisfaction with the quality of mainstream education

問題文訳

本文に示されている、親が子どもを学校に通わせない 2 つの理由は何か。次の文章を完成させなさい。

_____や_____といった理由で、ホームスクーリングを決断する親もいる。

ホームスクーリングを行う親が子どもを学校に通わせない理由を 2 つ答える問題である。該当箇所は第 4 段落第 3 文である。同文によれば、a particular religious faith や dissatisfaction with the quality of mainstream education に関連する理由で子どもたちを学校に通わせない親がいるということなので、この 2 つを問題文で既に与えられている they に続く形にして解答すればよい。本文の表現を最大限利用すると上記のような解答が得

られるだろう。解答例では前者には have を補い、後者には feel を補った。dissatisfaction を形容詞化して dissatisfied とし、be 動詞を補うなどしてもよいだろう。

C

解答例

(例1) I don't believe homeschooling should be encouraged in Japan. Firstly, even though homeschooled children often achieve higher grades in exams than the other children, homeschooling has harmful effects as they don't meet their friends on a daily basis. For example, they have fewer chances to foster their sociability such as a sense of vertical relationship which Japanese people especially regard as important values. Secondly, children should be taught by teachers, who have teacher's licenses and are familiar with all the subjects. However, homeschooled children are taught by parents, who are not experts in them in many cases.

訳：私は日本においてホームスクーリングが奨励されるべきだとは思わない。第一に、たとえホームスクーリングを受ける子どもたちがその他の子どもたちよりもしばしばテストでよい成績をとれるにしても、ホームスクーリングには、子どもたちが日常的に友達に会えないゆえの弊害がある。例えば日本人が特に重要な価値を見出す上下関係に対する感覚などといった社交性を高める機会が彼らには少ないのである。第二に、子どもたちは教員免許をもち、すべての科目をよく理解している教師によって教育されるべきである。しかし、ホームスクーリングを受ける子どもたちは多くの場合、すべての科目に特化しているわけではない両親に教育されるのである。

(例2) I am against the idea for the two reasons. First, it is important for children to have competitors around them to grow up because children consciously or unconsciously regard them as one of their aims. However, it is not easy for homeschooled children to find such competitors. Second, children can experience a lot of meaningful things at school other than study such as club activities or some events including a school festival and an athletic festival. They can remain as wonderful memories even after becoming an adult. These are why I am against it.

訳：私は2つの理由で問題文にあるような考えに反対です。第一に、子どもたちは身近な競争相手を意識的に、または無意識的に目標の1つとするため、彼らが成長するためには身近に競争相手がいるということがとても重要なことです。しかし、ホームスクーリングを受けている子どもたちにとってそのような競争相手を見つけることは容易なことではありません。第二に、子どもたちは学校で勉強以外にも部活や学園祭、体育祭といったいくつかのイベントなどたくさんの有意義なことを経験できます。それらは大人になってからも素晴らしい思い出として残るものなのです。以上の理由から私はこの考えには反対です。

問題文訳

ホームスクーリングは日本でも推奨されるべきだと主張する人もいる。70～100 語でこの考えに反対する意見を論じなさい。解答には最低でもあなたの主張を支える 2 つの理由を盛り込むこと。

ホームスクーリングを日本でも普及させるべきだという意見への反論を 2 つ以上の理由とともに述べる問題であった。

(例 1) では

- ・ 上下関係に関する意識など、社交性を高める機会が少ない
- ・ 教員免許をもつ各科目に精通した教師ではなく、親から教育を受ける

というホームスクーリングによる弊害を、

(例 2) では

- ・ 身近な競争相手の存在が子どもの成長に役立つ
- ・ 学園祭や体育祭等の各種行事、部活

といった学校に通うことで得られるものについて強調している。特に(例 1)では、問題文に“日本で”ホームスクーリングを奨励すべきだという意見への反論を述べよとあることに注目して、日本社会の特徴として挙げることのできる長幼の序に対する意識を例に挙げてみた。問題が、日本ではホームスクーリングが普及していない現状を念頭に、単にホームスクーリングを推奨すべきではない理由を問うているのか、それとも日本において推奨すべきでない理由を問うているのかはわからないが、余裕があれば“日本で”に触れてみるとより印象のよい答案が作成できるだろう。

表現

neighborhoods 「近所 / (修飾語を伴って) 地域」

dissatisfaction 「不満」

unqualified 「無資格の / 不適當な」

vertical relationship 「上下関係」

(中島庸元, 吉田涼佑)

2015 年度 北海道大学 前期 英語

4

出題範囲	長文読解
難易度	★★☆☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	量は多めだが、語彙や文法は比較的平易であり読みやすい文章であった。問題に関しても、本文の精読をする必要性は小さく、流れを大体わかっていたら正解がすぐに得られるものであっただろう。この問題に時間をかけすぎてしまった場合には、試験全体を通しての総合的な時間配分を再検討してもらいたい。

本文訳

以下のラジオ番組の台本を読んだあと、番組内で挙げられた要点に言及する 1 節を読みなさい。まとめの 1 節には 12 個の空欄が含まれている。各空欄に対し、4 つの選択肢から番組内で述べられたことや示されていたことに最適な単語や句を選びなさい。解答用紙には自分の選択に対応して A,B,C または D と記しなさい。

ヒューゲル：ナショナルサイエンスラジオへようこそ。司会は私、リック・ヒューゲルです。今日は生態学の専門家を 3 人呼びしています。アリを専門にする科学者のブルース・ロウエル博士にイカを専門とする生物学者のジャレド・バーンスタイン博士、生態経済学者のクリスティーナ・グランボワ博士です。まずは生態学の定義とは何なのかというところから始めていきましょう。グランボワ博士？

グランボワ：どんな生物もそれぞれほかの生物や無生物と互いに影響しあっています。生態学では生物とその生きる環境との関係を研究します。

ヒューゲル：私たち人間もその一部ということですね。

グランボワ：人間は地球に強い影響を与えています。生態学者が任意の種の影響を測る方法の 1 つとして、その種のバイオマス、つまりその種の全個体の総重量を測定するというものがあります。ロウエル博士とバーンスタイン博士に、地球上のすべてのイカやアリのバイオマスが人間のバイオマスと比べてどれくらいか推測していただきたいのですが、ロウエル博士、いかがでしょうか。

ロウエル：おっと。私はイカについては何も知りませんよ。当てずっぽうで、半分くらいでしょうか。

バーンスタイン：はは。でも私もまったく見当もつかないので笑ってはいけませんね。10%でどうでしょうか。

グランボワ：正解は、人間、イカ、アリのバイオマスはおそらくだいたい同じくらいなのです。私が「おそらく」と言ったのは正確にはわからないからです。

ヒューゲル：正確にわからないというのはなぜでしょうか……。

ロウエル：どれだけの個体が存在しているのかわからないからです。

バーンスタイン：どれだけの種が存在するののかもですね。常に何かが見つかり続けていますから。

ロウエル：それで思い出しました。ニュージーランドでダイオウイカが見つかって、そのために博物館が建てられたらしいですね。

バーンスタイン：それはダイオウホウズキイカのためです。2つは別の種です。両種とも深く、暗い海に生息し、バスケットボールくらいの大きさの目をしています。ダイオウホウズキイカはダイオウイカの倍くらいの体重があります。

ヒューゲル：そして地球上のすべてのイカの総重量は地球上のすべての人間の総重量にほぼ等しいのですよね。

バーンスタイン：そのとおりです。そしてイカのバイオマスは増加しています。海洋の温度が上昇し、プランクトンが増加しているからです。しかし私たち人間全員に対して同じくらいの重量になるほどのアリがいるとは知りませんでした。

ロウエル：平均的な人間 1 人に対して、アリは 200 億匹存在しています。アリや、ほかにもシロアリやスズメバチ、ミツバチなどといった社会的な昆虫は合計で、すべての昆虫のバイオマスの約 75% を占めています。彼らは繁栄し、多様化しているのです。アリの巣 1 つに女王アリが何匹いるかご存知ですか。

ヒューゲル：1 匹だけではないのですか。

ロウエル：答えはイエスでありノーでもあります。女王アリが 1 匹もない巣もあるのです。よろしいですか、アリの巣は単独の女王アリが穴を掘り、産卵することから始まるとは限らないのです。ときどき、働きアリの大群が引っ越して新しい^{すみか}住処を見つけようと決断することがあります。そのような群れは新しい女王アリを迎えるまでに数カ月かかる場合もあるかもしれないし、ひょっとするとひょっこり立ち寄った女王アリを自分たちの女王にしてしまうかもしれません。

グランボウ：ということは働きアリは女王アリなしでも働くということですか。私だったらボスが見ていなければ働かないでしょうね。

ヒューゲル：はは。私もですよ。ではアリとキリギリスの寓話は本当なのですね。

ロウエル：アリは私たちが思っているほど勤勉ではありません。私たち人間のように、怠け者なアリもいます。実際のところ、ほとんどすべての種には怠惰な個体がいるものです。ライオンなどは 1 日の 80% の間休んでいます。アリも同じです。

バーンスタイン：しかし誰も働かなければ、その共同体自体が死んでしまいますよね。

ロウエル：コロニー、アリの共同体はそう呼ばれているのですが、コロニーには働き者のアリと怠け者のアリの両方が存在しているのです。ある人がある実験を行いました。アリ 1 匹 1 匹を色で区別して観察し、働き者のアリを怠け者のアリと分けました。何が起きたか想像してみてください。

ヒューゲル：働き者のアリ達はうまくいって、怠け者のアリ達は死んだのではないですか。

ロウエル：分けられたあと、働き者のうちのいくらかは怠け者になり、怠け者のうちのいくらかは働き始めました。両方のコロニーは同じ状況になったのです。

ヒューゲル：それはとてもおもしろいですね。しかしイカに話を戻すと、バーンスタイン博士、巨大なイカ 1 匹あれば、軍隊だって賄えるのではないのでしょうか。

バーンスタイン：そうだといいのですがね。ダイオウイカやダイオウホウズキイカは海へ投げ返されてしまうのです。需要がないのです。

ヒューゲル：それならそもそもなぜ捕まえるのですか。

グランボワ：それには私が答えられるかもしれませんが。浅瀬では魚を獲りすぎてしまったため、漁師は深海の魚を求めるのです。

バーンスタイン：そうです。天敵がいなくてイカの個体数は増えてしまっているのです。しかし全体的には魚は不足してきています。

グランボワ：魚は小型化してきています。釣りでフロリダを訪れる観光客は獲った中で 1 番大きい魚の写真撮るのです。50 年代に撮られた写真には、長く、太っていて、中には皆さんと同じくらいの大きさの魚が沢山写っていました。しかしここ数年で撮られた写真に写っている魚は赤ん坊ほどの大きさなのです。未来はあまり明るくなくそうです。

ヒューゲル：先生方、ありがとうございます。来週の番組では中世の医学についてお話しいたします。それでは、ナショナルサイエンスラジオをお聴きくださってありがとうございました。

生態学者は生物がその生息環境とどのように影響し合っているかを研究している。種のバイオマス（種の総重量）はその種が生態系でどれほど支配的であるかを示している。ほとんどの種の総バイオマスは漠然としかわかっていない。現在の推定に基づけば、人間のバイオマスはイカやアリのバイオマスに等しい。

アメリカの漁師たちはかつてないほど高くイカの漁獲高を挙げている。漁獲高増の理由の 1 つには海水温の上昇がある。もう 1 つの原因としてはイカの天敵の減少もある。

海洋表面付近の大型魚の減少はフロリダ沖で行楽客に釣られた魚の歴史的写真にはっきりと記録されている。これらの写真にはおそらく最大の標本が写っている。成人男性くらいの大きさの魚は 1950 年代には珍しくなかった。今日では、旅行者は赤ん坊サイズの魚を釣って自慢している。

魚の個体数に関するさらなる証拠は、ダイオウイカやダイオウホウズキイカが漁船の網にかかる頻度の増加にも見て取れる。大型のイカが取れてしまうことは二重に残念なことである。第一に大型のイカは商業的に無価値であり、第二にそのようなイカが獲れているという事実からは、かつてないほど深いところまで網が投げられているということがわかるからである。

アリやシロアリ、スズメバチ、ミツバチは社会的な昆虫である。社会的な昆虫は全昆虫のバイオマスの約 75% を占めているといわれている。

巣 1 つあたりの女王アリの数は種ごとに、また同じ種の中でもそれぞれ異なる。女王アリ 1 匹から始まり、すべての働きアリがその子であるような巣もあれば、数百匹の働きアリが自分たちのもともとの巣を出て始められるような巣もある。彼らは新しい女王アリを迎えるまでにしばらく時間がかかることもある。

働きアリは必ずしもよく働くわけではない。ある実験で、科学者たちはそれぞれのアリに異なる色で印をつけて観察した。彼らはいくらかのアリはほとんどずっと休んでいることに気がついた。その怠け者のアリたちを別のグループに分けたところ、そのうちのいくらかが働き始めた。

解説

(1) 正解は B

選択肢訳

- (A) はっきりと
- (B) 漠然と
- (C) 広く
- (D) 論理的に

空欄を含む文を見てみると、「ほとんどの種の総バイオマスは（ ）知られている」となっている。グランボワの第 3 発言からロウエルの第 2 発言にかけて、個体数がわからないため、人間やイカ、アリのバイオマスは正確にはわかっていないという内容がある。バイオマスについて本文に明示されているのはこの 3 種のみであるが、ほかの種にも同じようなことがいえると考えてもいいだろう。よって各種のバイオマスが正確にはわかっていないという内容を反映して、正解は(B)である。

(2) 正解は A

選択肢訳

- (A) ～に等しい
- (B) ～よりも多い
- (C) ～と比較できない
- (D) ～より少ない

「人間のバイオマスは、イカやアリのそれ（ ）」という箇所である。これはグランボワの第 3 発言に人間とイカとアリはすべてバイオマスが同じくらいと述べられていることがみつけられれば解答はすぐに(A)に決まるだろう。

(3) 正解は A

選択肢訳

- (A) ~の天敵
- (B) ~の病気
- (C) ~間の競争
- (D) ~の市場

「(イカの漁獲高増の) もうひとつの原因はイカ()の減少である」という箇所である。これはバーンスタインの最終発言より、イカは天敵がないことにより個体数が増えていることがわかるので正解は(A)である。ちなみに(B),(C)に関して本文に記述はないが、(D)に関してはバーンスタインの最後から2番目の発言にダイオウイカやダイオウホウズキイカなどの大型イカの需要はないという記述がある。需要がないということは意図的な漁獲はなく、浅瀬の魚のように数が減ってしまうということはないために繁栄しやすく、結果的に漁獲量が増えると考えて選んでしまった人もいるかもしれないが、注意してもらいたいのは、本文で需要がないと述べられているのはイカ全般ではなくあくまでも大型のイカ限定である。よって(D)も不適切である。

(4) 正解は C

選択肢訳

- (A) 美しさ
- (B) 成長
- (C) 減少
- (D) 価値

空欄を含む文は「海洋表面付近の大型魚の()はフロリダ沖で行楽客に釣られた魚の歴史的写真にはっきりと記録されている。」となっている。グランボワの最終発言に、フロリダへの行楽客の釣り上げる魚が小型化しているとあることから、大型の魚が減少していると考えられるので正解は(C)となる。

(5) 正解は C

選択肢訳

- (A) (値段が)手頃な
- (B) 高価な
- (C) 珍しくない
- (D) 前代未聞の

「成人男性ほどの大きさの魚は 1950 年代には ()」という内容の箇所である。グランボワの最終発言には、フロリダ沖で獲れた魚を写した当時の写真のいくつかには成人ほどの大きさの魚が写っているとあるので正解は(C)となる。

(6) **正解は D**

選択肢訳

- (A) 恥じる
- (B) がっかりする
- (C) ショックを受ける
- (D) 誇る

「今日では、旅行客達は赤ん坊サイズの魚を ()」という箇所である。グランボワの最終発言では、フロリダへの観光客たちは釣った中で最大の魚を写真に収めること、近年の写真に写る魚は赤ん坊サイズであることが述べられている。本文中に彼ら観光客の魚のサイズに対する感想について明示されている箇所はないが、彼らは最大の魚を記念として写真に撮っているのはプラスの感情を抱いているからだと推測できるので最も適切なものを選ぶとすれば解答は(D)であろう。

(7) **正解は B**

選択肢訳

- (A) 有益だ
- (B) 残念だ
- (C) 有望だ
- (D) 期待どおりだ

空欄を含む文章は「大型のイカを捕まえることは二重の意味で ()」となっている。正解は(B)である。詳しくは(8)と(9)の解説に譲るが、空欄直後の first, ~, and second ~ の部分で、大型のイカには需要がなく、かつ深海にいるそれらが獲れるということは網がそこまで投げ込まれており、その事実からは浅瀬の魚が減っていることが推察されるということが述べられている。これら 2 点を考えると、大型のイカが獲れることは有益でも有望でもなく、残念なこと以外の何物でもないだろう。よって解答は(B)となる。

(8) 正解は C

選択肢訳

- (A) 高級だ
- (B) よく知られていない
- (C) 価値がない
- (D) 改良中だ

「彼ら（大型のイカ）は商業的には（ ）」という箇所である。バーンスタインの最後から2つ目の発言には、大型のイカは需要がなく、海に返されるとある。需要がないということは商業的には価値がないといえるため解答は(C)となる。

(9) 正解は D

選択肢訳

- (A) より幅広く
- (B) より長く
- (C) より浅く
- (D) より深く

「大型イカが獲れているという事実からは、かつてないほど（ ）ところまで網が投げられているということがわかる」という箇所である。グランボワの最後から2つ目の発言には、漁師は浅瀬で魚を獲りすぎてしまったため深海の魚を狙うということが示されている。浅瀬の魚が減ったため、狙いがより深くにいる魚になって、網もより深くに投げ込まれるとわかる。よって解答は(D)となる。

(10) 正解は D

選択肢訳

- (A) つくる, 産む
- (B) 捕まえる
- (C) 取り替える
- (D) 受け入れる

空欄を含む文は「彼ら（新しい巣に引っ越した働きアリ達）が新しい女王アリを（ ）までにしばらく時間がかかることもある。」という内容である。ロウエルの第5発言には、もともとの巣を出て新しい巣に引っ越したアリの大群は数カ月待ったあとにふらっと立ち寄った女王アリなどを女王として選ぶこともあるという内容

がある。立ち寄った女王アリを自分たちの女王とするのだから女王アリを新しくつくり出すのではないし、巣をつくってしばらくの間は女王不在であるのだから取り替えるわけでもない。残りは capturing か accepting だが、本文の該当箇所には「立ち寄った女王アリを adopt する」とあることを考えると、capture のように無理に捕まえて女王にするというニュアンスとは異なる。よって解答は(D)となる。

(11) 正解は A

選択肢訳

- (A) 色
- (B) バーコード
- (C) ラベル
- (D) 鍵

該当の文は「ある実験で、科学者たちはそれぞれのアリに異なる（ ）で印をつけて観察した。」という内容である。ロウエルの第 7 発言に、アリ 1 匹ずつを色で区別して観察する実験を行った人がいることが示されている。このことから解答は(A)となる。

(12) 正解は B

選択肢訳

- (A) 死ぬ
- (B) 働く
- (C) 戦う
- (D) 寝る

「怠け者のアリたちを別のグループに分けたところ、そのうちのいくらかが（ ）始めた」という文である。ロウエルの最終発言を見てみると、もともと怠け者だったアリだけのグループをつくったところその一部が働き始めたことが書かれている。よって解答は(B)となる。

表現

correspond 「合致する，対応する」

ecology 「生態系」

squid 「イカ」

roughly 「ざっと，大体」

giant squid 「ダイオウイカ」

colossal squid 「ダイオウホウズキイカ」

diversify 「多様化する」
termite 「シロアリ」
wasp 「スズメバチ」
lone 「1人の」
drop by 「(予告なしに) ひょっこり立ち寄る」
grasshopper 「バッタ, イナゴ, キリギリス」
industrious 「勤勉な」
inactive 「不活発な, 怠惰な」
thrive 「繁栄する, 成長する」
overfish 「乱獲する」
medieval 「中世の」
organism 「(微) 生物, 有機体」
document 「(文書で) 証明する, (証拠書類) を提供する」
vacationer 「行楽客」
presumably 「おそらく」
depict 「描写する」
specimen 「見本, 標本」
vessel 「(ボートより大型の) 船」
solitary 「孤独の」

(中島庸元, 吉田涼佑)